



いわて医療通信【薬の服用について】

2. 薬を飲みやすくするには

前回、内服薬について飲むタイミングや飲み合わせについてお伝えしました。

内服薬は錠剤以外にもカプセル剤や水剤など多くの形があります。特に飲みにくいものとしては粉末状の散剤・顆粒剤があります。これらを飲みやすくする方法としてオブラートを使用する方法があります。

オブラートを使用する際には、薬を包んだ後に水で少しの時間濡らしておくことで飲み込みやすくなります。また、唾液

が少ない場合にはあらかじめ水で口の中を潤しておく

と破れにくくなります。飲み込む力が弱い場合には、とろみ剤やゼリー剤などに溶かして飲む方法も推奨されます。漢方薬も顆粒タイプのため、やや飲みにくいですが、もともと生薬を煎じた薬なのでお湯または水に溶かして服用することもできます。お薬をジュースやお茶などの水以外のものに溶かすことは薬の効き目や味に影響する可能性がありますので、推奨できません。

錠剤も種類によっては

大きくて飲み込めないものもあります。大抵は半分

に割ってよい線（割線）が入っている場合は、割るのも構いません。割るのが大変であれば、薬剤師に相談して割ってもらうことも可能です。割線が入っていない薬の場合、薬がゆっくり効くように工夫がされています。胃酸で薬が弱くなったり、苦みがないように工夫されていることがあります。自己判断で割ったり砕いたりしないようにしてください。

このようにしていただく場合は、口の

中で溶ける口腔内崩壊錠（OD錠）に変えると飲みやすくなります。

また、フィルム状の薬も最近開発されています。OD錠やフィルム状の薬は唾液で溶けますが、唾液をきちんと飲み込まないと薬が効かないので注意しましょう。他にも、ゼリータイプの薬、飲まずに貼って効くテープタイプ

の薬など、代わりの薬の形がある場合もあるので、どうして飲むのに苦労する場合には、医師や薬剤師に使いやすい剤型がない

か相談してみるのがよいかと思えます。

岩手医科大学附属病院薬剤部

朝賀 純一

